

会 議 録

| | | | |
|-------------------|--|--|------|
| 会議名 | | 平成28年度第3回図書館協議会 | |
| 事務局 | | 図書館 | |
| 開催日時 | | 平成28年10月24日（月）午後2時から午後4時まで | |
| 開催場所 | | 図書館本館 集会室 | |
| 出席者 | 委員 | 田中 幸夫、藤森 洋子、石田 静子、内田 美帆、舩崎 尚、吉田 和夫、坂野 勝一、中里 成子 | |
| | 欠席者 | 大友 敬三、鴨下 万亀子 | |
| | 事務局 | 菊池館長、西村庶務係長、岡本奉仕主任、山下主事 | |
| 傍聴者の可否 | | 可 | 傍聴者数 |
| | | | 1 |
| 傍聴不可・一部不可の場合はその理由 | | | |
| 会議次第 | <p>1 議 題</p> <p>(1) 「小金井市の図書館の在り方」について（諮問）</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 「第2次小金井市子ども読書活動推進計画進捗状況について」の質疑保留について</p> <p>(2) 平成28年第3回小金井市議会定例会報告</p> <p>3 その他</p> <p>(1) 図書館本館インターネット端末について</p> <p>4 配布資料</p> <p>(1) 第2次小金井市子ども読書活動推進計画進捗状況についての回答（事前送付）</p> <p>(2) 「図書館の在り方」の進め方</p> <p>(3) 「小金井市の図書館の在り方」スケジュール（案）</p> <p>(4) 諮問書（写）</p> <p>(5) 図書館だより（第36号）</p> <p>(6) 月刊こうみんかん（No.461、462）</p> | | |

【菊池館長】 皆様こんにちは。本日はご多忙のところお集まりいただきまして、ありがとうございます。今週は週末少し天気が悪くなるものの、大体秋晴れということで、久しぶりに好天が続くのかと思っております。

本日は、始まる前に鴨下委員と大友委員がお休みということでご連絡をいただいております。また、船崎委員が少し遅れるということでございます。よろしくお願いいたします。

また、事務局ですが、本日、厚生文教委員会が開かれておりまして、奉仕係長が私のかわりに出席しておりますので、こちらは欠席ということでご了解いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、まず配付資料から確認させていただきたいと思っております。

【西村庶務係長】 皆さんこんにちは。本日の資料の確認です（資料説明）。

【菊池館長】 それでは、田中会長、会議開催につきまして、よろしくお願いいたします。

【田中会長】 それでは、平成28年度第3回の小金井市図書館協議会を開会いたします。

お手元の次第に従ってお諮りしたいと思いますけれども、1の議題が重い議題ですので、最初に報告事項から入らせていただきたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

【田中会長】 では、報告事項から入らせていただきますけれども、（1）「第2次小金井市子ども読書活動推進計画進捗状況について」の質疑保留ということで、事務方からご説明をお願いします。

【岡本奉仕主任】 前回質問いただきました事項で、その場で回答できなかった部分につきまして、確認をとりましたので、回答をさせていただきたいと思っております。

1つ目、まず平成27年度の読書感想文コンクール応募数は、1,791件ということで、こちらが小金井市民だけだったのかというご質問をいただきました。こちらは小金井市立の小中学校の児童と生徒だけだったということで確認がとれましたのでご報告させていただきます。

次に2点目、表彰式はどちらかの会場で行ったのかということですが、昨年度につきましては、801会議室を利用しております。補足としましては、会場につきましては、他に前原等も使っていることがありますので、年によって会場は異なるということを確認しております。

3点目です。読書感想文の表彰した人の発表会は何かしたのかということです。こちらは教育委員会に報告のみということで確認をとっております。また、教育だよりの3月号にも掲載されております。

続きまして、4点目です。学校図書館のコンピューターを操作するのは一体誰なのか。司書教諭、支援員または図書委員の子どもなのかということではございますが、こちらにつきましては学校にもよりますが、児童・生徒でも自由に操作ができるようになっていないかと確認をとっております。

5点目です。読書感想文をどのように募集しているのか、また審査は誰が行っているのかということです。学校によっては宿題として出しているところもあるという回答を前回させていただいておりましたが、指導室に確認をとったところ、司書教諭が14名おり、その全員で審査しております。その中で最優秀賞、優秀賞を選んでいるということで確認をとっております。

6点目です。公立保育園、幼稚園の図書購入についてですが、全園まとめて購入するという事務の効率化を図ったのは一体どういうことなのかということで、効率を図るために買いたい本が買えないのではないかと疑問を持たれていたところがあったと思いますが、こちらにつきましては、図書の購入はあくまでほかの消耗品などとあわせて購入をしているということなので、買いたい本が買えないということはありません。各園ばらばらに購入してしまうとどうしても効率が悪くなってしまいますので、それを効率よく行っていたということで回答をさせていただきたいと思っております。

以上、6点につきまして、前回回答できなかった部分について報告させていただきました。

【田中会長】 ありがとうございます。ただいまのご報告について、ご質問等ありましたら、発言をお願いします。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、報告事項の(2)平成28年第3回小金井市議会定例会報告について、事務方からご報告をお願いします。

【菊池館長】 平成28年第3回小金井市議会定例会のご報告をさせていただきます。第3回定例会は、8月29日から10月4日に開会されました。図書館に係る部分を中心に報告させていただきます。まず一般質問です。

9月5日の一般質問では、水上議員から、身近で使いやすい図書館の整理を求めるということで、図書館の6館構想、施設設備方針の具体化、まちづくり事業用地への図書館の

整備が主な質問でございました。

6館構想ですが、その構想をご説明した上で、運営方針の改訂時に施設のあり方については、別途時間をかけて検討したほうがいいという結論となり、改訂版には盛り込まれなかったということで、現在6館構想はないものとお答えしております。

また、施設設備につきましては、公共施設総合管理計画も視野に入れての検討になるという内容の答弁をいたしました。

また、まちづくり事業用地ですが、東小金井駅の北口にありまして、旧JRの貨物鉄道用地を小金井市土地開発公社が取得したのですが、今年の6月現在では、まだ市有地になっていないと聞いております。このうち2つの土地で約3,000平米の活用について検討されたのが平成25年度策定の東小金井駅北口まちづくり事業用地整備活用計画でございます。

計画のコンセプトとして、東小金井地域には多目的複合の施設を整備すべきであるとの考え方から、施設に整備すべき8つの機能が示されており、その中の1つに学習図書機能が掲げられております。この計画は、まだ計画のままとなっております。

しかしながら、図書館の中長期計画を早急に策定することを求める決議というものが昨年度議会から出されておまして、図書館の将来像を描くことが最優先であるとのお言葉をいただいておりますので、まずは図書館全体の将来像、あり方の検討から進めていく考えであるとお答えしました。

次に、決算特別委員会です。宮下委員からNPO運営委託の実績と、市民サービスにお応えできているのかというご質問でした。

これについては、平成27年度の貫井北分室、東分室の事業報告をいたしまして、ビブリオバトルやぬいぐるみお泊まり会などをご説明いたしました。

また、資料要求で平成27年度の各館の開館時間、開館日の一覧をお出ししております。

続きまして、田頭委員からやはりNPOについて。NPOの講座が直営館に及ぼしている波及効果はあるのか。直営館でもビブリオバトルを開催したらどうか。具体的な検討しているのかというご質問でした。

これについては、週1回の選書会議に委託館である東、貫井北分室長も出席しており、その際に各館の講座の周知や新しい取り組みなど、意見交換をしております。直営館の職員も刺激を受けていますとお答えしています。講座の結果については、選書会議や業務日誌等で報告を受けております。

直営館でのビブリオバトルについては、具体的な検討には至っていないとお答えしております。

続きまして、紀委員からは、ハンディキャップサービスと大学図書館との連携について、2点ご質問ございました。

ハンディキャップサービスにつきましては、地下の対面朗読室の防音はドアのみだが、ほかに何か具体的な手当てはしていないのか。そして、貫井北にある防音室は使えないのか。また、デイジー予算を増やさないのかといった内容でございました。

これにつきましては、今後、対面朗読室をつくる際には、ボランティアさんのご意見も伺いながら作っていくことになると思いますとお答えしています。現在の対面朗読室ですが、もともと対面朗読室としてつくったわけではなく、そもそもは警備員室だったものを対面朗読室に直している関係で、ドアだけが防音になっているとのことです。その際にボランティアさんからのご意見を伺わなかったということをご指摘もあったようなので、今後、そういう新しい施設をつくっていく中で対面朗読室をつくる際には、実際活動されているボランティアさんの意見も聞いていきたいという回答をしております。

また、貫井北に防音室というものがあるのですが、ここは対面朗読室としての用途ではなく、音楽の楽器などが置いてあり、少し用途が違います。よって、今のところは考えていない旨の回答をしております。予算については、ご意見として受けとめさせていただきとお答えしました。

そのほかにも、関連質問で中根委員から、対面朗読の報償や謝礼が余ったら、デイジー録音の謝礼に使えないかというご質問がありましたが、予算の性質上厳しいとお答えしております。

紀委員の2つ目、大学図書館の連携については、農工大学、東京経済大学と連携していますが、学芸大や法政大とも連携していかないか。そして、大学図書館の利用について、以前、図書館内で張り紙を見たことがあるが、現在の周知はどうしているのかというご質問でした。

答弁といたしまして、農工大につきましては、平成27年8月から農工大の府中キャンパスの図書館も利用できるようになったこととお話しした上で、学芸大は個人貸し出しができますので、図書館同士での相互貸借の連携はしていないとお答えしております。

また、法政大学は、連携はしていないが、紹介状の要望があれば発効している点をお答えいたしました。

大学図書館利用の周知は、現在、館内で張り紙はしていませんが、図書館ホームページには、農工大と東経大が利用できることを掲載しているとお話ししております。

続きまして、渡辺大三委員から18歳選挙権について、主権者教育をどのようにしているのか、テーマ展示も検討しないかという趣旨のご質問でございました。

答弁といたしましては、「選挙基準に基づいて本は展示をしていますが、大事な部分だと認識しています。出版点数も増えると思いますので、気をつけて展示をしていきます。

テーマ展示については、一定程度蔵書がそろえば可能だと思います。」とお答えしました。

最後に、吹春議員から貫井北分室のファックスについて、こちらはリースで契約しているのか、購入しているのかというご質問がありましたので、リース契約であると回答しております。質問事項は以上になります。なお、平成27年度の一般会計、各特別会計歳入・歳出決算の議決結果は認定となっております。

続きまして、議会報告の最後になります。6施設複合化についてです。

8月31日に6施設複合化プロジェクトチームから最終報告書が市長に提出されました。市ホームページにもアップされておりますので、お読みになった方もおられるかと思えます。この報告書を受けて、市長は議会最終日の10月4日に庁舎建設等にかかわる今後の方針についてとして、市長報告をされました。

A4で1枚程度ですけれども、主な部分を今、読ませていただきます。この報告書には、「市長としての責任において、議長及び市議会からのご指摘いただいた課題を踏まえて、この庁舎建設等にかかわる問題について、ゼロベースで見直すことを決断し、今後、市民、議会、行政が一体となって進むべき方向を定めてまいります。本日の時点では、明確な項目まで申し上げることはできませんが、早期に具体的な提案ができるよう、最大限の努力をしてまいりますので、議員各位のご理解を踏まえようよろしくお願い申し上げます。」ということで市長報告が出されています。

これにつきまして、議員からゼロベースということはどういうことかというご質問がありました。市長のご回答は、ゼロベースとは、新庁舎は蛇の目工場跡地に建設し、新庁舎完成後には第2庁舎は返すということ以外はゼロベースで見直すということでした。

この市長報告に対して市議会では、同日、新福祉会館と新庁舎の早期建設を求める決議を提出し、全会派一致で可決しております。議会報告は以上になります。

【田中会長】 ありがとうございます。今、第3回の市議会の定例会の報告がありましたけれども、何かご質問等ありましたらお願いいたします。

【坂野委員】 1つ確認がありまして、第2回市議会の定例報告の議事録を読んでいる中で、第2回定例会で市長はこのようなおっしゃっています。

「図書館がいずれやってくる老朽化対策に備える際に、私としては、庁舎建設予定地への建設というものを念頭に置いている。」ということで、このときには市長は蛇の目跡地に造るとおっしゃった。そしてその理由についても市長が答弁されていまして、容積率が余っているので有効に活用したいからとおっしゃっていたのですけれども、今のご報告聞いていますと、この市長の意見は変わったといいますか、蛇の目跡地であるかどうかを含め、また白紙にして臨むという理解でよろしいのでしょうか。

【菊池館長】 第2回の定例会ではそのようなことを市長はご発言されていたと私も記憶しておりますが、第3回の定例会の最終日にはゼロベースで見直すというご発言でした。

以上です。

【坂野委員】 わかりました。

【田中会長】 そのほか。

【石田委員】 テーマ展示について質問がありましたが、本年度のテーマというのは決まっているのですか。そういうのは図書館だよりのようなかたちで皆さんに周知するようになっていますか。

【菊池館長】 テーマ展示についてですが、本館ですと1階部分、2階の児童室部分、また各分館でも行っています。大体1箇月から2箇月ペースでやっています、年間かなりのテーマ展示をしておりますので、図書館だよりの発行とタイミングが合わなくて、図書館だよりで周知しておりません。図書館ホームページでは、現在行われているテーマ展示をお知らせしております。

【田中会長】 そのほか議会報告に対してご質問ありますか。

ないようですので、報告事項2については終わりにしたいと思います。

その他の報告事項は何かございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、次第に戻りまして、議題1の(1)「小金井市の図書館の在り方」について(諮問)ということで、それでは、事務局からご説明願います。

【菊池館長】 前回の8月24日の図書館協議会で、図書館の将来像についての検討、計画づくりの準備を始めていることをご説明しました。計画策定の必要性や計画の中身、どのように作っていくのかを私が館長試案という段階でお話しさせていただきました。

しかし、今、私から報告させていただきましたように、10月4日に6施設複合化がゼ

ロベースに戻ったということから、6施設複合化を視野に入れての図書館計画づくりが難しくなりました。このことにつきましては、前回計画をつくっていきますと皆さんにお話ししたことがあります。本当に申し訳ないと思っております。おわび申し上げるとともにご理解いただきたいと思っております。

しかし、そうは申しましても、小金井市の図書館サービスの指針となります運営方針はございますが、図書館をどうしていくかという総体的な図書館の将来像、図書館ビジョンの部分については、図書館として現在示せるものは何もないと言っても過言ではありませんので、検討していく必要がございます。議会でもご指摘いただいておりますし、市の後期基本計画でも市民のニーズに沿った図書館のあり方を検討していくことが掲げられております。従いまして、どのような図書館が本市には考えられるのか、その図書館のあり方を図書館協議会委員の皆様と協議していただきたく、本日諮問させていただきます。

小金井市図書館協議会、会長、田中幸夫様。小金井市図書館長、菊池幸子。「小金井市の図書館の在り方」について（諮問）。小金井市図書館協議会条例第2条の規程に基づき、以下の事項について貴協議会のご意見、ご見解を賜りたく、諮問いたします。

1、諮問事項、「小金井市の図書館の在り方」について。2、諮問内容。小金井市立図書館は、昭和39年に開館して以降「いつでも、だれでも、どこでも、なんでも」利用できるサービスを提供することを目的に成長して参りました。図書館サービスの指針となる「小金井市立図書館運営方針」は、平成25年に全面改訂いたしました。図書館の在り方については、別途時間をかけて検討すべき事項としたまま、現在に至っています。このことから、小金井市立図書館といたしましては、社会情勢や図書館を取り巻く状況、また本市の厳しい財政状況を踏まえつつ、どのような図書館の在り方が市民サービス向上のために考えられるのか検討したいと考えます。つきましては、下記の事項を中心に貴協議会としてのご意見、ご見解を賜りたく諮問いたします。記、1、本市の図書館に必要な機能について、2、本市の図書館に必要な施設規模等について、3、本市の図書館の運営形態について。

【田中会長】 館長からただいま図書館のあり方ということで諮問をいただきました。本来はこの間の話では施設ができそうで、そこにどういう機能を立てるかという話があったのですが、今回は施設が幻みたいに見えなくて、そこにどういうものを作ったらいいかという話になっていますけれども、先ほど、諮問の中にありましたように、こういうものを作っておかないと、次のときに乗り遅れてしまうということもありますので、この機会

を利用して、皆さんと一緒に諮問の中にあります3つの点。必要な機能と、必要な施設規模等について、そして、運営形態という3つについて諮問を受けているわけですが、このことについて協議会の皆さんと協議をして、諮問に答えられるように作っていきたいと考えております。

とはいえ、何もなければどうしようもないので、ある程度の道筋とか、そういうものをもう少し示していただきたいと思いますので。皆さんの資料もありますけれども、スケジュール等も含めて、大まかに説明していただければと思います。それからご質問やご意見を伺いたいと思います。

【菊池館長】 お手元に横書きの「図書館の在り方」の進め方（協議資料）というものをお配りさせていただきました。

5点書いてございます。1が「在り方」の必要性。2が「在り方」の考え方。3が審議内容。4が審議の進め方について（案）。5が審議スケジュール（案）となっております。

1から3をまずご説明させていただいて、そこでその後ご質問等あればお受けしたいと思っておりますので、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

【菊池館長】 それでは、いきます。

図書館のあり方については、何度かお話しさせていただいておりますが、ここであり方の必要性というものをわかりやすく4点ほど出してみました。ここで図書館のあり方について一定程度考えを示していかなければならないということで、まず1つ目、貫井北分室及び東分室の業務委託ということがございます。

その右に行きまして、現状と書いてありまして、委託の方向性について将来的な見通しが示されていないということ。貫井北分室は平成26年の4月、東分室が平成27年の8月に委託を開始いたしました。それぞれ、その館の運営体制をどうしていくのかということで諮問させていただいておりますが、そういうことではなくて、全体的に図書館として一体どうしていくのかというところの将来的な見通しが全然見えていないということがありますので、こういうことも含めて解決していかなければならないところでございます。

その下に行きまして、6館構想のその後と書かせていただきました。

現状といたしましては、先ほど私からお話ししましたように、運営方針を改訂した際に、時間を要するものは別途検討することにしたため、6館構想には施設配置などのあり方がなくなり、図書館の将来像が見えていないということがございます。

続きまして、図書館サービスの多様化ということです。多様な市民要望がある中で、本市の図書館に必要な機能が検討されていないということがございます。

図書館体制につきましては、運営方針にこういったサービスを進めていくと掲げられておりますけれども、それに対してどういった機能が必要なのかというところを検討しておりませんので、それを載せさせていただきました。

4点目として、中央図書館がないということでございます。

今期基本計画の中に、中央図書館のあり方等も含めて検討していくと掲げております。現在、ここが本館と言われておりまして、本館がいわゆる中央館的な機能といたしますか、各分室のネットワーク網のかなめというように、自然と運営しているということでございます。ただ、中央館を持たない自治体も何市かあると聞いておりまして、果たしてそういう館のあり方がいいのか。それとも今のように、中央館があつて、そこに分室がつながっていくというネットワーク形式がいいのかということもまだ検討しておりませんので、それも含ませていただきました。

一番右、解決策としまして、本市の図書館にふさわしい図書館の将来ビジョン、あり方を示すと書いてございます。

2番の「在り方」の考え方ですが、今のところまとめのような形ですけれども、小金井市には、どのような図書館ネットワーク網がふさわしいのか、図書館の将来像を描くことは、図書館サービスの指針となる「小金井市立図書館運営方針」を推進していくために不可欠な部分である。また今後の社会経済情勢や本市の財政状況、図書館を取り巻く変化の中で、小金井市立図書館が成長し発展し続けるためにも、図書館のあり方を見つけなければいけないと考えますと述べさせていただいております。

続きまして、3番目、審議内容です。この1、2、3が諮問書の1、2、3に当たるように書かせていただきました。実際にこれに沿って協議を進めていただくことになります。

本市の図書館に必要な機能について。どのような機能が図書館に必要なのか、優先順位も含めて整理が必要であり、必要な機能が整理されると必要な規模等が見えてくるのではないかと留意事項に挙げております。

図書館をどういう目的で使われているかによって、図書館に求めるものが違ってくるかと思えます。ゆっくり新聞を読みたい方は広いスペースが欲しいですとか、お子さん連れで図書館を利用して、子どもの本と大人の本とを両方借りる方は両方一遍に見られて、子どもの声がうるさいと言われぬようなスペースが欲しいと言われるかもしれませんし、

学生さんなど研究する方にしてみれば、1人で勉強や研究ができる机、十分なスペースが欲しいということもあるかもしれません。いろいろな意見は、今までも過去にもたくさん言っていただきました。これが実際、本市にどのような機能が必要なのかということをもた一から考えていきたいと思います。その優先順位も含めて、これが1番でこれが2番としていくことで、規模的なものも見えてくるのではないかなと思っています。

2番目に、本市の図書館に必要な施設配置、規模についてということで書いてあります。

今、企画政策課で、公共施設等総合管理計画というものを策定中でございます。そろそろパブリックコメントが出されるかと思っています。小金井市の公共施設の数というのは、他市に比べるとそれほど多くはありませんが、図書館本館でも築40年ほど経っていますし、そういう施設がある中で、今後施設を維持していくことがなかなか難しくなってくる時代でございます。

そんな中で、一施設ではなく公共施設をどう管理していくのかという、市としての方向性を見つけるための計画でございます。その計画と今度ここで図書館が考えていくあり方がかけ離れたものであると、作っていく意味というものが見えてこなくなってしまうので、総合管理計画との整合性を図る面もでございます。

そして、本市の図書館に必要な施設配置、規模等についてでございます。ここ本館ですとか、各分室、図書室の果たしてきた役割を踏まえながら、今後はどのような施設のあり方が考えられるのかを社会経済情勢や本市の経済状況も踏まえつつ、柔軟性のあるあり方が必要になります。

今、小金井市では分館は持っておらず、一番大きなところで貫井北分室の700㎡に届かないくらいの規模です。各地域の図書館として、東分室や緑分室がありますが、その各分室が果たしてきた役割をもう一度考えていただいて、今後、どのような施設があり得るのかということを検討したいと思います。

3点目としまして、本市の図書館の運営形態についてということです。

今後も図書館としては、サービスの拡充を図っていかなくてはならないと考えます。図書館発展のために、どのような運営形態が考えられるのか。委託館、貫井北・東分室の評価と検証が今後必要になると思います。公民館とも足並みをそろえる必要があると書いてありますが、これは分室が公民館との複合施設、センター化になっておりますので、その辺も含めて、公民館とも調整を図りながら進めていく必要があると書かせていただきました。以上、雑駁ですが、1から3までご説明させていただきました。

【田中会長】 ありがとうございます。

今、館長から「図書館の在り方」の進め方ということで、1から3までのことについて説明がありましたが、ご質問、ご意見等ありましたら、発言してください。

確認ですけれども、6館構想というのは、本館、6施設のことじゃないですね。

【菊池館長】 6館構想という言葉は、最初に6館の考え方が出てきたのが、昭和52年の社会教育委員会の答申に、小金井市における社会教育施設のあり方についてという中で、図書館の6館ということで挙げられています。

考え方として、中央線を挟んで北と南ありますので、南側はこの本館が1個、あとは分館規模を2個、北側にもこの本館と同じものを1館、同じように分館規模が2館ということで、北と南で3館ずつというように答申ではいただいております。

平成元年に旧小金井市立図書館運営方針が出されたときに、この中に6館構想が出ていて、その際に出ている6館というのは、ここの本館と東分室、それと過去にございました貫井南センター。これは南側の3館。そして、北側は緑分室が1個、そして、今、貫井北が建っていますが、あの辺りの地域で1館。そして東小金井駅の北側で1館ということで6館。行政側としての6館構想としては、その6館ということです。

ただ、そのほかにも、平成11年にやはり社会教育委員の会議から答申をいただいております、この際に社会教育委員の会議の中での6館というのは、東、緑、貫井南、貫井北、あとは武蔵小金井駅の駅前と東小金井駅の駅前ということで、答申が出る際の社会情勢が変わってきていますので、6館の考え方がいろいろあったのかと思いますが、こちらで思っていたのは、さっきお話しした貫井南、本館、東、緑分室、それから新しく建った貫井北あたりと東小金井の北口の6館。

それ以降、何も話が進んでいなくて、貫井南センターはその後、閉室してしまいましたし、貫井北は無事にオープンできましたけど。あとは東小金井の北口とありましたが、このときに6館構想というものをつくった際に、何を根拠にここの場所としたのかが少し曖昧ですが、ただ、図書館側で、このぐらいのスペースで6館と考えたのかもしれませんが。

【田中会長】 この6館構想というのは、生きているのですか。

【菊池館長】 今はこの考え方はないと議会でお話しさせていただきました。というのは、この長い経過の中で、やはり様々なところで図書館の話題が出てきます。駅前開発の際やどこかで施設が改修されると、図書館も一緒にどうかということで、何かと図書館の話が上がってくるため、6館構想を持っていたのですが、実際は話だけで、図書館が乗り

かかってはまた降りるようなかたが続いてきています。

実際今、6館構想に沿うという話が進んでいるということは、貫井北以外は話がありませんが、貫井南は閉じてしまいました。西之台については、6館構想に入っているということもないので、今6館構想はないと考えています。

【田中会長】 わかりました。ありがとうございます。

【船崎委員】 本日遅れてすみません。また、科学の祭典のお手伝いできなくて、誠に申し訳ありませんでした。

遅れてきたのもう既に説明があったのかもしれないのですが、前回、策定委員会の話があり、あくまでも中心は協議会であるということがあったのですけれども、協議会についての諮問事項というのはわかりました。その上で平成30年の2月までにあり方を出すということで、その策定委員会はどのような役目なのでしょうか。このあり方に基づいて具体的に何か図書館計画を立てるという位置づけですか。

【菊池館長】 前回の図書館計画をつくるというお話の際に、策定委員会があった方がいいのではないか、小委員会が欲しい、そういうお話もあったかと思います。私からは、協議会中心に話を進めてほしいという話をさせていただいたのですけれども、今回そういう意味では、計画よりもさらに一步手前の……。

【船崎委員】 ビジョンというか、あり方……。

【菊池館長】 そうですね。なので、策定委員会を持つことは考えておりません。

【船崎委員】 わかりました。

【吉田委員】 まず、私も科学の祭典申し訳ありませんでした。

それから、審議内容が3つに分かれているのですが、よく考えると、必要な機能が何かということを確認にして、それによって施設設備が変わってくる、施設のあり方も変わってくる、そして、それに伴って図書館の運営も変わるということで、つまりこれは3つに分かれてはいるけれど、一体的に考えなければいけないと思います。

おおむね、私もそんなにたくさんの経験はないですが、市議会の答申というのは、基本的に何となく全体のイメージが先あって、この方向に向かって皆で考えていくことが割と多いと思います。これまで僕が入ってきた審議会もそうだったのですが。それをゼロベースになって、全てグランドデザインやビジョンからこちらで検討するというになると、やはりこれはかなりの時間的なものが必要、回数的なものも必要ではないかと以前思ったのですが、もう1つのスケジュールの案を見て、おおむねそんなに多くやるわけ

ではないですよ。そうすると、一体どこがどのようにデザインを作って、いわゆるグラ
ンドデザインみたいなものを提示するのかというのが少し私にはまだわからないのです。
それがこことおっしゃるのであれば、結構厳しいものがあるのではないかと思います。

【菊池館長】 今ご質問があったとおり、当初、計画の際には、こちらでたたき台を出
していただくというお話をしたのですが、少し方向性が変わってあり方の検討となったと
ころなので、この3本柱を出させていただきました。まだご説明してない4番の審議の進
め方のところの案に入るのですが、今、吉田委員がおっしゃったように、確かにこの3点
はすごく密接な関係がありますので、関連してくると思われま。なので、4番のところ
を読ませていただくと、審議項目に沿って検討していただき、図書館がまとめると。全て
の項目の検討が終わり次第あり方のたたき台を図書館が提示と。全体的に見直してあり方
(案)を答申していただく。最終的に図書館がまとめると書かせていただきました。

これが1案なのですが、もう1つの案としまして、今おっしゃられたように、こちらで
ある程度のたたき台を、機能としたらこんな機能があるのではないかといた案を出させ
ていただいて、それを検討していただくというのも1つの方法かと思っておりますので、
そこのところについては本日も相談の必要があると思ひまして、ここに案でつけさせてい
ただきました。

【中里委員】 このあり方スケジュール、案ですけれども、拝見しますと、30年の2
月に答申をすればよろしいということですか。

【菊池館長】 それはこの5番の審議スケジュール(案)のところですが、30
年の2月までにいただければということですか。

【中里委員】 ではこれは29年ではないということですね。

【菊池館長】 ごめんなさい、29年度です。失礼しました。

【中里委員】 30年の2月までに答申をお出しする。

【菊池館長】 申し訳ありません。協議資料の5番目の審議スケジュール(案)の「平
成29年」は「平成29年度」の誤りです。すみませんが訂正いたします。

【中里委員】 ということは、14期のこのメンバーが終了した後になりますよね。そ
うしますと、その辺の引き継ぎ的なものであるとか、どこの辺まで我々で話を詰めておく
かなども含めて、やはり総括的に相談をして、その上でスケジュールを進めたほうが合理
的かと思います。

【菊池館長】 ここにお示ししましたスケジュール(案)は、29年度末までにいただ

くとするとこんな感じになるのではないかということで作らせていただいたものですので、14期の皆様に仕上げる方向が取れば、作っていただければと思いますし、15期に引き継いで、たっぷり時間を使って検討するというのであれば、引き継ぎ事項等も含めまして、やはり相談の上ということになります。

【坂野委員】 先ほどの菊池館長のご説明に戻りまして、3点教えてください。

1点目は、1番「在り方」の必要性の2番目、6館構想のその後の現状の欄に書いてあります、「運営方針を改訂したときに、時間を要するものは別途」とありますが、この時間を要するものはどうであったかという点を教えてください。

それから、この1、2、3という項目を全体的に見まして、「本市の」という言葉がよく出てきます。菊池館長とされては、この「小金井市の」という特徴的なものを何かお考えのものがありませんでしたらお教えいただければと思います。

3点目は用語の問題でございます。先ほどから分館と分室という言葉を使い分けていらっしやいますが、同じ意味なのかそうでないのか、用語の説明をお願いできればという、以上3点です。

【菊池館長】 1点目、ご質問いただきました中で、運営方針を作る上で別途時間をかけてというものですけれども、昔の運営方針には、数値目標ですとか、先ほど言いました6館構想に向けてですとか、そういうものが入っていたのですが、運営方針を改訂する際に、20年以上ぶりに改訂をしたものですから、かなり時間がかかってしまいました。その際に、ここに施設計画や数値目標を検討するとなると、更に多くの時間がかかってしまうということがあったので、そこは慎重にするべく、改訂する際には運営方針の図書館サイドの部分だけを改訂しようということで、施設計画や数値目標は入れなかった経過があります。それが1点目です。

2点目で、私が思う小金井市のあり方ですかね。

【坂野委員】 特徴についてです。

【菊池館長】 特徴ですかね。位置的に学校も多いですし、あと緑も多いですし、非常に住みやすい町であると同時に、図書館としましては、武蔵野市ですとか三鷹市ですとか、小金井市の規模はそれほど大きくはないですが、近隣に迫っている自治体は結構大きな図書館が多くて、やはりそれらと比較されやすい町ではあります。「府中ではこういうことができるのに小金井ではやってくれないのか」ですとか、「武蔵野には武蔵境の駅前にあんな大きなものが建ったのに小金井はないのか」ですとか、そういった比較をされてきました。

そうすると、うちでもあのようなものがあつたらいいなと漠然と思うことも結構あります。

そうではなくて、小金井市の今の現況、先ほどお話ししたように、公共施設の維持が難しい。財政状況から見ても、負担になってきました。そういうことも含めて、人口や将来どうなっていくのかという見通しを立てた上で、将来像といいますか理想像はあるのですが、手が届く、現実にはかなえられる理想像という範囲で検討していきたいというように思っています。

それから、3点目、分室、分館というこの言葉の区分けといいますか、明確なものではないのですが、貫井北センターができた際に、あそこを分館と呼ぶか分室と呼ぶかという議論がされたかと思います。その際には、分館規模ではないのではないかという話があつたように記憶をしております。結果として分室と名づけられたと。ここが本館ですが、既に他市によっては分館規模と見えますので、そういった意味で私たちは、ここ以外の施設は分室。また、西之台は非常に小さい、部屋なので図書室という区分けにしております。

【中里委員】 今の館長のご意見、とても賛同します。理想を言い出したらオリンピックと同じで限りなくなってしまう傾向もあります。やはりそれは財政的にも身の丈に合ったものにすべきだと思います。5年後、10年後に我々協議会が答申を出したということが恥ずかしくないような形にしていければと思っております。

そのためにも、アンケートの実施というのはしていただけるのでしょうか。これはもうなくなったのですか。前回のように策定委員会等の設置を今は考えなくなった以上は、市民に対する地域のアンケートというものもなくなったと考えるべきでしょうか。

【菊池館長】 アンケートの部分ですけれども、前回、中里委員から利用者アンケートという話があり、私から図書館計画を作るのであれば、未利用者の方も含めたアンケートをしたいという話をさせていただいたのですけれども、状況が変わりまして、このあり方作りについて、無作為抽出のアンケートは少し難しくなってきました。なので、もしアンケートをするのであれば、来館者向けのアンケートになるかと。

【中里委員】 併せてホームページなどで、ネットでの簡単な意見募集というのはできますか。難しいのでしょうか。質問の仕方がとっても大切になると思います。アンケートというのは、本当に下手をすると意見が混然としてしまつてかえって收拾がつかなくなつてしまいます。アンケートをとったにもかかわらずということもありますから、慎重にしなければならぬと思うのですけれども、もしホームページなどで、どうしてもここが聞きたいというようなところについて、ホームページを訪れるような方はある程度いろいろ

希望もおありでしょうから、その辺が少し聞ければ、私たちだけの意見ではなくて、ある程度の地域の方々の意見を反映したものが答申に織り込めるのかなという気がしているのですが、そこまで広げる必要はないのかもわかりません。それも含めてここで相談をしていただいた上で決められれば。

【菊池館長】 来館者アンケートですと、前は、アンケートの素案も作ったのですが、郵送を考えていたので、結構な枚数が答えていただけると思ったのですが、来館者ですとせいぜい裏表ぐらいのものと、書く方が困ってしまいますので、そうするとあんまり内容的にも盛り込めないというところもあって、アンケートを実施するかどうか少しこちらでお諮りしたいなと思ったところです。

あとは、ホームページでアンケートは可能かどうかというところは、まだそこまでは検討していなかったのも、もし実施してほしいということであれば、その方向で模索してみます。

【吉田委員】 施設の複合化や統合というのは、もう小金井市だけではなく、どこでも考えているところで、特に学校施設が大変なことになっていて、件数も多いのにそれをどうするのかということで、単にこれまでの人数が少なくなったから統合するというだけではなく、施設面でいわゆるファシリティマネジメントといいますか。要するに、そういう機能を維持することにお金と経費が非常にかかるようになってきたということについてあちこちで考えている訳です。

小金井の場合には、学校の問題もさることながら、本館が、本日も閉館時に来て改めて思ったのですが、非常によく頑張っている本館になっていると思うのですが、はっきり言うともうかなり老朽化していますし、やはり住民サービスの点から見ても、やはりこれを何とかしなければいけないだろうと思うのです。

もちろん、大きな館を建てるという時代ではないだろうと前も申し上げましたけれども、多分、小金井はもっと生活に密着した、そういう分館、分室をたくさん作るみたいな形でいいのではないかとはいいますが、ただ、この本館自体はやはりきちんと考えていかないといけないし、どういう扱いにするのかということも含めて、やはり何と言いますか、市の方向性みたいなものは必要なのではないかとと思うのです。我々としては、おそらく意見や考え方を述べることはできると思いますが、やはり市がどう考えているのかですね、特にこの協議会としてどう考えているのかということは、示していく必要があるのではないかと思います。

【菊池館長】 そうしますと、こちらで一定程度のたたき台といたしますか、案をお示しして、それについて検討させていただくほうが協議会としてもお話ししやすいところでしょうか。

【石田委員】 案についてですが、前期で諮問が出た際に、田中会長が小金井市の皆さんに図書館についてどう思うかという意見を聞くような会をつくりたいということをおっしゃっていて、そういうことを市に進言していくような方向性をこの委員会として作れたらいいのではないかとおっしゃっていました。アンケートとはまた違いますが、諮問を受けてこれから始めるところですから、様々な意見をお持ちの方が前回の委員会の際も傍聴していらして、いわゆる荒れるということもあるかもしれませんが、そういう会を設けるのもいいのではないかという気もいたします。大変ですができるといいと思います。

それから、前回の諮問、小金井の図書館のあり方についてという題でしたよね。小金井の図書館をどう思うか。少しうろ覚えなのですが。

【田中会長】 少し違う。

【石田委員】 違いましたっけ。

【菊池館長】 前回は委託に関して。

【田中会長】 委託に関して、結局は、その委託をするかしないかも含めた上で考えていくと、小金井市の図書館の運営等をどのようにしていくべきなのかという話につながっていくので……。

【石田委員】 すみません、そこが少しはっきり覚えていなかったもので、もしそれが参考になるならば、前回の答申を皆さんに見ていただいてもいいのかなと。ネットで見られることだと思うので、少し言ってみました。

【田中会長】 答申には多分そういう詳しいことは書いてなくて、A4の1枚ですので。議事録か何かでわかると思いますし。

【石田委員】 まとめましたよね。

【田中会長】 まとめました。パブリックコメントでの話ですが、今おっしゃったのは討論会を公開でやるというようなことだと思うのですが、やはりそれにしても何もなければ話にならないと思う。何もなくて、皆さんどうですかと言ったら、本当に様々な意見が出てまとまらなくなると思いますので、ある方向性と、先ほど少し出ましたけれども、インターネットを通じての意見等を吸い上げながらやっていくという方向が、まだ現実的ではないかという気がします。

【内田委員】 先ほども出ましたけれども、まずこの本館をどうするか、老朽化の問題もありますし、今現在、福祉会館が老朽化で危険ということで、先にクローズして、その代替施設もないままのためかなり混迷しているかと思います。そこを使っている皆さん、そこで活動なさっていた方が、活動の場がなくなって解散された団体もあると聞きますし、各学校に施設を貸してほしいと学校の関係者もかなり困惑していますので、仮に図書館がこのまま何となく決まらないまま時間ばかりが経過し、いざこの建物は危険ではないかと言ってクローズになった場合に、福祉会館でしたら他の場所やスペースを使って何とかありますけど、図書館の場合はここにある本をどうするのか、どこに一時退避させて建て替えるのかという話も出てくるので、これは福祉会館よりももっと困った問題になるのではないかと思います。そうならないためにもまず、ここを建て替えるなりリフォームするなりどうしていくかということが一番の取り組むべき議題ではないかと考えます。

【菊池館長】 すみません、先にお話ししましたが、この建物は数年前に耐震診断を受けておりまして、壁の亀裂や雨漏り、様々な問題がありますが、耐震的には結構良い数字が出ているところがあります。

当初はやはりこんな状態なので、問題があるのではないかと考え、その結果を待ってから修理をしようという話があったらしいのですが、そこをクリアする結果となりました。そうしますと、市の施設というものはどうしても人命に関わるのところから優先となってくるかと思えます。市庁舎、先ほどおっしゃられた福祉会館など。福祉会館はもう閉館していますので、そういう意味では、行政側から見た図書館の優先順位というのは、単独で見た限りではかなり後になってしてしまったのではないかという気はします。そうなってくると、維持修繕しながら使っていくということもありますので、その辺も含めて考えていかなければならないところです。

【田中会長】 先ほど吉田委員から、市の上の考え方、要するにここで言えば図書館協議会を掌握しているのは教育委員会になるかと思えます。その教育委員会がある程度の、図書館に対する考え方みたいなものを示していただく必要があることと、これは図書館長の仕事かもしれないですが、今言った施設の問題について、耐震をクリアしているとはいえ、築40年たって、機能から見てもおそらく非常に遅れていると思います。つまり、パソコンで何かするとかそういうことを含めると、建物は老朽化していて、耐震はクリアしているけど、その中に入っている機能が少し劣化しているといったら失礼ですけど、そういう状況になっているということもあって、施設の順番とかそういうことは私どもでは少

し把握できないところがあります。

先ほど人命ということも出ましたけど、つまり、市全体から見た際に図書館の位置付けというものがどの辺にあるのかということと、その順位を上げるにはどのようにしたらいいのか、そこが見えてこない、絵空事を書いてばかりいても虚しいところがあるので、一緒に行くといった際には行けると思ったのですが、それがゼロベースになった。だからといって、施設の建設案は残っている。そうしますと例えば庁舎を建てます、福社会館を建てます、その次はどこですかね。学校等ではないでしょうか。そのようなことを考えていくと、図書館はすごく下にいますよね。一応、地震が来ても倒れないということ。

だから、そういう時期に施設をこれぐらいとかあれぐらいとか言っても、そうすると何かミニマムリクワイヤメントがこのぐらいで、理想が1万平米でとか、そうして作っていくということに……。そういうことは机の上でできるというか、ここまでみんな一生懸命やらなくてもできてしまうような気もしないでもないのですが、だからその辺の切実感というか現実感というか、そういう情報をどこかから得たいなみたいな気がするのですが。

例えば、図書館から諮問を受けましたが、教育委員会がもっと出て行って議会で言うからとか、そのような何かのアクションがないと。やれと言われれば皆さんやると思いますが、何かぼやっとし過ぎていて……。

【船崎委員】 田中会長にひとつ作戦なのですが、私も長い間このようなことをやってきて大小3つの館の建設に携わったのですが、必ず土地が予定されていたり、ここはもう図書館がないといけないという状況であったり。例えば吉祥寺の図書館を建設する際、やはり市が狭い等の条件の中で策定委員会という話になっていきますよね。そうすると、そこはもう規模は大体決まっている状況です。それから、中央図書館が非常に老朽化しているから、とにかく探すということでやった際は、武蔵野市としての要望があり、その上でうまく土地があったのでできました。

いずれにしても、会長が言ったように、何か目処というか、ここを壊して造るといった案があると確かにすごく考えやすい。漠然と小金井市の図書館の理想像というか、ビジョンというのは難しいような気がします。だから何か情報がないと。市の方向性というか。

【石田委員】 蛇の目の跡地に市庁舎が移るのなら、本庁舎の跡地はどうなるのか聞きました。そうしましたら、売って資金に充てると。で、本庁舎が今あるところを図書館にできるならば、立地条件としてはすごくいいのではないかと思います。だから、売らないでそういう運動もする価値もあるかなと。

それから、1回だけ放映されたのですが、熊本の地震の際に市役所が潰れましたよね。その関連として、学校等の施設の耐震性を最優先にし、市の施設を二の次にしているということで、小金井市の本庁舎が映ったのです。そういう市があるのだということで。ただし、学校に対しては完全に耐震性を確保している。児童を最優先に守っているということで、本庁舎が映ったのです。「えっ、小金井市が」と、私ははっと見ましたが、その1回だけの放映でした。実際歩いてみても、小金井市は学校についてはやはり耐震は結構しっかりしているので、児童の生命を守ることを最優先で、庁舎を二の次に置いているんだなということは現状としてもわかるのですが、市から図書館長へ、本庁舎の跡地というのは何かどうなるかという情報は入っておりませんか。私が聞いた人は売ってしまうのだろうと言っただけなのですが。

【菊池館長】 いろんな噂は聞きますが、具体的な案としては全然こちらには入ってきいていないです。先ほど皆さん方がおっしゃっていたように、図書館の建て替えという、やはり候補地や予算の目処がついてから建設計画となるのが一般的ではないかと、私も他市の事例を見ていて思います。

ただ、その前には市内のどの辺に図書館が必要なのかということもあらかじめ考えておかないと、なかなか難しいかと思うのです。先ほど言ったように6館構想というものが昔はありましたけれども、中央線が高架に上がったこともありますので、そういった意味では南北の通りが良くなったということもありますし、そういった地理的な状況も変わってきていますので、ここは少し見直して、図書館としてはどういったものが考えられるのかということ、協議会の委員さんを中心として考えていったものを示せればいけないと思っています。

市の上位計画で長期基本計画があります。その中でも、検討していくべきものとして明記されています。こちらは市民を交えてとなっているので、どのように市民の方と、この案では懇談会と書かせていただきましたけれども、皆様の中にも市民公募の方いらっしゃいますので、こちらを中心に検討していければと思います。確かにつかみどころがないというところもあるかと思いますが、中央館はこうあるべき、分室はこうあるべきという一本立てのものではなく、様々な案を出して方向性が見えてくれば、小金井市の状況によって図書館も進んでいけるのではないかと思います。今何もないので、今回みたいに蛇の目で複合化という話が出ると、図書館側はどう考えているのか、そこに入れるのか、入りたいのか、そこに建ててしまっても大丈夫なのか、建てた後にここはいらなかったのか

はないか、現状はそういうビジョンが何もないのです。そこが「あり方」で、例えばここはもう老朽化しているので、耐震は大丈夫だが、いずれはどこか近くに移りたいということの目処が立てば、そっちに流れるでしょうし、ここはこれからもあちこち修繕をしながら使い続けていくということがあればそうでしょうし。また、前々回の協議会で4,000平米ぐらいというお話もいただいたかと思います。その件にしても、3,000平米や2,000平米だったらどうするのかとなった際に、図書館として2,000だったら要らないとするのか、2,000でもワンフロアであれば結構なスペースが確保できるので受け入れるのか。ただ、平米数では機能が先にくると思いますので、どういったものを図書館に入れるのかによって変わってくると思いますけれども、そういった、漠然としたものになるかもしれませんけれども、ある程度の方針を示していきたいと思いますので、ぜひご協力をいただきたいと思います。

【坂野委員】 私そのような指示や方針があればやりやすいというところは賛成いたしますが、そうはいつでもその他参考として検討するものがあるだろうというということで、私も図書館の素人ですのでいろいろ関連する資料を読んでいます。その中には船崎さんが策定委員長とされてまとめられた武蔵野市の図書館基本計画という81ページの資料がありまして、まだ全部読みかねているのですけれども、これの4ページを見ますと、サービスに求められる視点ということで、施設、大きさ、規模等に関わりなく9つのポイントが挙げられていまして、これを読んでいて、やはりこういうところははっきり把握しておかないといけないのだなと思いました。これらは施設がどこにあるかに関わりなく議論すべきポイントだと思っております。やはり、施設の大きさも場所も決まってない何か漠たる状況と言いながらも、議論すべき我々としては、私は市民公募ですけども、こうあってほしいというような図書館の抽象的な機能の意見をまとめる必要があるのだろうと思います。

また、これに関して言うと、去年の10月4日、愛知県の小牧市というところで、図書館の新設案についての住民投票でかなりの差で反対になったということが報道されてきました。報道の範囲で読んだだけですが、その市民説明会も公開されてきました。その反対意見が増えた要因は、もともと34億円の建設予算額が42億円になったという点もありますが、それ以外に何のために図書館を建てるのかということが説明会のときに議論が出てきたようで、結局その説得が十分ではなくて、賛成2万4,000票に対し、反対3万2,000票で、7,000票あまりの差になったようです。相当な差だと思います。

ということは、小金井市の図書館はこういう事情でこういう方針でサービスの内容を考え、だからこれを建てますということを住民の方に説明しないと、最後の賛否を問うところで反対にあうのではないかと思います。その説明事項には場所、規模に関わりなく、やはり一定の観点があるだろうということを、この武蔵野市の図書館基本計画を読んでいて思いました。幸い船崎さんもいらっしゃいますので、こういう資料を見ながらいろんな論点を取り上げて、また他にも探してきて議論するというのは意味のあることではないかと思えます。

【田中会長】 ありがとうございます。

【吉田委員】 先ほど少し震災の話が出たのですが、うちの妻が熊本でした。被災をしたのですけれども、実は耐震強度の問題については結構大きな問題がありまして、学校もそうなのです。それはどういうことかということ、震度6、7の地震が連続して起こったという今回の事例のようなことが想定外だったということです。ただ、地震ですから想定すべきだったのかもしれないけれども、1回の地震しか対応してないのです。それで今回の熊本城も、1回目の地震には耐えたのだけれど、その次の地震でかなり崩壊したというところがあります。つまり弱いところに、次の地震が来ると非常に強度が落ちるのです。そういう算定はしておりませんので、この図書館が大丈夫かどうか僕には何とも言えない。これは学校建築もそうで、私のいた学校も危ないところでした。2回来たら少し危ないという感じがします。

そういうことも含めると、ここ小金井は教育と文化の町ではないかと思うのです。非常に子どもの学力も高いですし、かなり力を入れている。公の教育施設である図書館が後回しになっていることを、僕は市民ではないですけれども、ここにいる人間として少し耐えられないと思います。やはり教育はもっと優先権が高くなければいけないと思うのです。それは学校教育だけではなく社会教育の場である図書館も同じだと思います。

少し僕の知見の中にPFIというのが、中学校や小学校がありまして、それがいいかどうか分かりませんが、要するにプライベート・ファイナンシャル・イニシアティブ、つまり民間のお金を使うということです。これは今、内閣府が非常に強く推しているのですが、それは一体いいのかわかりません。しかし、お金がないからできない、お金がないから後回しだというよりは、やはりそれを少し前向きに考える必要もあるのだろうと思えます。

そういうことから考えると、はっきり言うと図書館の、いつまでこの答申があって、そ

の答申を踏まえてどうするのかということもあるのだけれども、少なくとも本館だけという訳ではなく、本館も含めて早めにこれに対応する必要があるのではないかと思うのです。せっかく文化の町で様々な大学も沢山ある小金井の、もう少し社会教育も含めた公教育を大事にする必要があるのではないかと強く思う次第です。

【菊池館長】 今、吉田委員のおっしゃったPFIの方法は、図書館だけがという訳ではなく公共施設のあり方として、お金がない中で挙がってきている1つの手法だと思います。実際PFIで建てられているところもあります、図書館として。ただ、それがいいか、小金井に向くのか向かないのかということもありますので、そういったところも含めて検討課題としていただけないかと思います。

【坂野委員】 今、菊池館長がおっしゃる意味ですと、前回のこの場で館長が説明された、以前に本町暫定施設の横にマンションがあつて、そこと一緒に図書館を建てると3,500平米になるという話があつたがだめになったという先例も白紙に戻して最初から議論していいということですか。したがって、PFIも選択肢として十分あり得るということでしょうか。

【菊池館長】 本町暫定のところは、アイデアといいますか、陳情があつたのです。もともとは、図書館ではなくて福祉会館とそのマンションとを一緒に建て替えたかどうかという案があつて、その陳情は不採択になつたのです。その続きといいますか、図書館はどうなのかという話になつたので、そこでどうと聞かれてもこちらでも検討課題にはないですし、蛇の目跡地の話がありましたので、検討はしておりませんというお答えはしています。

【田中会長】 今まで聞いていますと、答申に対して、3つの答申事項については皆さん異論がないと思いますけれども、その進め方とか、やはり情報をいただかないとなかなか進めないというところもありますし、私どもが集められる情報も限られる訳ですから、どうしても図書館側からいただかなければならないこともあろうかと思つたので、やはりある程度の資料や内容についてまとめていただいて、それをこちらでかみくだいて審議していく。そして、また必要な情報があればそちらに問いかけると、こういうやり方で進めたいと思つた。

【菊池館長】 スケジュール案を見ていただいて、こちらで勝手に決めさせていただいているのですけれども、例えば1月に、図書館側として必要な機能について第1回目として入れておりますので、この検討する材料をお示しして議論していただくことになる形の

進め方でよろしいでしょうか。その際に「こんな資料が欲しい」といったご意見を11月ぐらいまでにあらかじめいただければ、こちらでそれも入れて当日お示しする、そういうキャッチボール方式で進めていく形で。そして、最終的にこの3つのものがきちんと議論が終わったらまとめたものをまたこちらからお出しする形がいいかなと。

【田中会長】 あと、議会が12月から始まりますよね。そこで多分、新しい構想といえますか、市庁舎の建設やその他の建設など、ゼロベースになったとはいえ、新しいグラウンドデザインが出てくるのではないかと思うのですが、それをタイムリーに流していただきながらやっていくと非常に効率がいいのではないかと思いますので、その辺も留意していただいて、ある程度具体的なこともわかるかもしれないということがありますけれども。

【菊池館長】 会長のおっしゃったとおり議会の動きや動向、先ほどお話ししました公共施設等の計画も策定中でありますので、そういった情報は、協議会がもし行われていないときであればメール等を使って皆さんに情報提供させていただきたいと思います。

【石田委員】 その会議の1週間くらい前に送っていただけるとうれしいと思いますが。

【菊池館長】 そのたたき台みたいなものをですね。

【石田委員】 はい。家で少し読んで頭に入れてから出席できますので。

【菊池館長】 今回少し急激に方向転換したものですから、事前にお配りする時間がなくて、本日、協議資料をお渡ししましたが、次回からはできるだけ早めに、当日議論していただく資料は事前配布をさせていただきたいと考えています。

【吉田委員】 先ほど田中委員がおっしゃったように、教育委員会の動向をあわせて教えていただければと思います。1つは、教育委員会も総合教育会議の方向に立っていく訳ですので、首長さんのお考えも含めて教育委員会がどのように考えているかということが非常に大事なものだと思うので、ぜひその辺もよろしくお願いします。

【船崎委員】 ここのスケジュールのところ、11月8日の教育委員会（報告）と厚生文教委員会（行政報告）というのは、これは諮問したということですよ。

【菊池館長】 はい、そうです。

【船崎委員】 それから今、吉田委員がおっしゃったように、特に図書館というのは教育の分野の中でも結構下に位置付けられている、どこでも学校教育がやはり中心になってしまっているところがあるのですが、市の中でも教育委員会が一番下にあって、しかも教育委員会の下に図書館が、体育館の次みたいなのところがあって、私は非常に屈辱的な思い

を随分したのですが、非常に恵まれていたのは、結局首長がどう思っているかというのがものすごく大きいのです。それによって、たまたま首長が図書館をやるんだということで頑張っていたものですから比較的どんどん進むことができました。今度の市長さん、能か何かお好きな方ですか。能の関係の方が応援に入っていたので、文化とかそういうものに対して割と重視している方なのかと思ったのですが、いかがですか。

【菊池館長】 市長がどのようなご趣味をお持ちなのかはよくわかりませんが、今ゼロベースに戻ってしまった蛇の目跡地について。最初6施設といったものが、途中から4施設2機能になってしまいましたが、しかし図書館もあそこで整備していきたいという考えを市長はお持ちだったので、そういった意味では図書館はそこでもう頑張っていて食いついていくのだという方向で来た訳です。ここで全部見直しになってしまった状況ではありますが、なくなったとは思ってなくて、ゼロベースとしてもう一度考え直されるのということで、またチャンスを見つけて図書館は入っていきたいと思っております。そのためにも、では図書館はどう考えているのか問われた際に、あり方、このようなビジョンを持っていますと示していければと思っています。

【坂野委員】 非常に大きな「小金井市の図書館のあり方」を考えていく上で、私も自分なりに勉強しなくてはならないと思っています。法律からいけば図書館法は当然ですがけれども、これは図書館法はコメンタールもありますし、立法趣旨を書いた国会の議事録もあります。一方で、『小金井市立図書館運営方針』については実は少し難しくして、ざっと読んで見ても、内容が難しいという点もありますし、図書館法と少し変わった書き方をされていますよね。これを理解することに私は苦労しています。ですから、これをお教えいただく説明会を開催してほしいとは言いませんけれども、わからない点があればメールなり何なり質問させていただいて、理解を進めると。それが全ての出発点、小金井市についての図書館の検討する上で出発点のように思いますので、そのような徹底をしていただければと思いますが、いかがでしょうか。

【菊池館長】 諮問内容は主に3柱ですけれども、運営方針も関わってきますので、その協議の場でお出しただいてこちらがお答えするという構わなければいいですが、質問が沢山あり、その質疑応答だけで2時間終わってしまうと問題なので。

【坂野委員】 具体例に言いますと十幾つあるのですが、わかりやすいものを言います。注3にインドの図書館学者ランガナタンという方の原則を引っ張られておりますが、この前後を読んでも、この原則を引っ張られてこられた意味がわからない。ということで、こ

れは理解できない。

【田中会長】 運営規則のことについては、今、ここで質問やお答えする時間はないと思いますので、資料として次回、小金井市のものを添付していただいて、ご質問があるということであるならば、直接事務方にご質問していただいて、その中で必要なことを次回また報告していただければと考えます。

【坂野委員】 そういうお願いをしてしまってもよろしいかどうか、菊池館長のご意見をお聞きしたいということです。

【菊池館長】 では、事前にご質問いただいて、それを次回、事前配付するかどうかは未定ですが、皆さんと一緒にお配りするというところでよろしいですか。

【田中会長】 質問の内容等が関わるのであればいいですけども、個人的にわからないことを皆さんに周知させても意味もないと。みんなに関わるようなものであれば、ここを出していただければと。

【菊池館長】 了解いたしました。

【西村庶務係長】 メールでのやりとりについてですが、皆さんに共有すべき内容は館長と会長とも相談して、共有させていただくと。今、個人的なやりとりで済むようなものは添付することはないということをお願い致します。

また、皆さんにこういった大きなものをお願いしておいて申し訳ないのですが、あまり一気に依頼されてしまうと、手に負えないこともあるかと思っておりますのでご容赦ください。もちろん皆さんお忙しい中なので、期日等を設定させていただいて、やりとりをさせていただきたいと思えます。

【田中会長】 先ほど来、教育委員会の話も出ていますけれども、図書館という機能と学校の図書館というか、学校図書との関連性というか、その壁がありますよね。その辺についても、取っ払う、融合する、施設を使う、そういう考え方もあると思います。図書館協議会というこの中で、この図書館をどうするかということですけど、普通の人から見れば、もっと学校の図書館もあるじゃないか、そういう施設を使えないのか等、そういうことを考える訳じゃないですか。

そういう意味では、やはり教育委員会がしっかりと機関内で、様々な方法を検討しながら、あり方を考えていったほうがいいのではないかと思うので、やはり教育委員会、教育長の考え方、あるいはそういうところも縦割りを取っ払うようなあり方があってもいいと思えますし、ましてやこんな狭いところで土地もない訳ですから、そういうやり方も考え

られるのではないかと思います、その辺も教育長がいる際には、「こんなことも何か考えているらしいよ」みたいなことを言っておいてほしいと思ひまして、よろしくお願ひします。

【中里委員】 今の田中会長のご意見に関連するのですけれども、やはり図書館というのは、もちろん建物もなのですが、私は蔵書が全てだと思うのです。その場合に、全ての図書館で全て立派な蔵書を持つということは予算的にも到底無理でしょうから、そういう意味でも大学の図書館やできれば学校図書館も使えるようになってほしい、そして高齢者、障害者、子ども向けについても、全体を網羅できればよいと考えます。1館で全ては無理でしょうけれども。あまり遠くの大きな図書館に行かなくても、結局は小金井内で網羅できるようなシステムが整えば、私は理想だといつも感じています。

ですから、何回も言うようですけれども、書店とみまがうような新刊本をずらっと並べる必要はないと思うのです。小金井の図書館らしい形を、それこそビジョンを持って、選書も含めてやっていけたら一番理想だと感じています。

【菊池館長】 最初の議会報告で大学図書館の話をしていただき、協議資料の中にも図書館ネットワークの話をしていただきました。市内の施設のネットワークだけではなく、そういう大学や学校図書館、その辺も含めて柔軟性を持って、どういった形で一番小金井に将来的な、現実的なネットワーク、将来像が描けるのかということも含めて検討していただければと思います。

【石田委員】 前回も言ったと思うのですが、山本教育長とこの間少し話す機会がありまして、教育長が武雄図書館の様子をパワーポイントにまとめて、いい資料を持っているのです。協議会でああいうものを見せてくださいとお願ひしたら、「教育長、来てくれますか」と聞いたら、「まだほかにも行っているから、もっとまとめていいものを見せてあげられるよ」と言っていたので、ぜひ機会があれば、教育長は図書に関心を持って、自分の夏休み等を使って様々なところに行っていらっしゃるので、そういう機会も作れたらと思います。

【田中会長】 ありがとうございます。三者合同会議でできないですかね。

【石田委員】 教育長に要望してください。1時間ほどのパワーポイントでしたけど、すごくよくまとまっていた。

【坂野委員】 先ほど田中会長の学校教育の壁の話がありましたけど、さらに教育委員会の下にこの図書館協議会があるにしても、教育委員会からさらに外との連携ということも考えられないかという点をここでは提案しておきます。

もっと言えば、民間、あるいは教育委員会の外にある公共施設の活動との関係を考えることができると思ったところです。

【田中会長】 そのほか何かございますか。

先ほど諮問を受けましたので、その諮問に対して答申を出すということは、私どもの最初の仕事だと考えております。

スケジュール表を見ていただくと、来年、再来年の2月ぐらいまでには何とか最後のあり方をいただきたい。ただし、できたらこの期の中でできるのであればということなので、それは次回もしくは次々回くらいでスケジュールのことは考えさせていただきたいと。やっていくうちに何となく無理なのか、まだ始まったばかりで来年の10月までということに懸念もありますので、大雑把なスケジュールはこれでやっていこうとは考えていますけれども、場合によって、この期までにできるかどうかについては保留にさせていただきます。

今回は内容も含めてアンケート等について、やるのかやらないのかというお話も次回にしたいなど。おそらく来館者アンケート等は可能だと思うのですが、それを一般の方にまで広げるかどうか、そういうことになるとまた少し大変なことになるかもしれないので、アンケートの実施や内容等について案を作っていたいただきたいのですけれども、次回お話をさせていただきたいと思います。

したがって、このスケジュールについては、おおむね認めた格好で進めていくということによろしいかと思えます。

【菊池館長】 そうしますと、事務局側の宿題としましては、アンケートを実施するかどうかはともかくとして、アンケート案ということと、ホームページで可能かどうかということ、また第1回目のたたき台の資料の提出ということによろしいでしょうか。

【田中会長】 はい。

【坂野委員】 アンケートの具体的な話になりますけど、我々は1月まで集まらないようなので、ひとつアンケートの手法について提案しておきますと、10年以上前にどこかでそういうアンケートを私が受けたのですが、施設の出口で簡単な「イエス」「ノー」の質問をするという形式で答えるというものです。バーを渡されて、「イエス」か「ノー」かに入れてくださいと。三択だったかもしないですが、例えば「図書館は広いほうがいい」という質問に対し、バーを入れていただくと。そうすると、そのバーの数によって意向がわかるのです。それを毎週変えていくのです。次の週、開館時間は午後10時までがいいとか、そうするとアンケートの数が相当高くなるのです。

貫井北分室でも去年アンケートをとっていましたが、たしかかなり少ない回答数で、いわゆる統計の信頼性・有意性がないような回答数であったと覚えています。信頼性・有意性を高めるために、図書を借りる際に回答する手法を、少し図書館側の負担になりますけれども、考えてください。質問項目は、例えば開館時間を午後9時までにしてほしい「イエス」「ノー」とか、そんな形での質問形式を考えて、それで次回ご提案いただければと思います。以上多少具体的ですけど、自分の経験からひとつ申し上げました。

【菊池館長】 参考にさせていただきたいと思います。

【中里委員】 今回のアンケートの二者択一のような形をとる場合に、非常にアンケートの中身が、先ほども申しましたけれども、微妙になってくるかと思うのです。広いか狭いかというと、やはり誰でも広いのがあればいい、時間も長いほうがいいという方が多いでしょうし、それに対して予算的にも人力的にも応えられないということで、NPOに委託が始まっている訳ですから、空虚な質問をしたら意味がないので、その辺を、次回、案をお示しいただいて、私たちでできる知恵を絞って見極めていきたいと思います。いかがでしょうか。

【吉田委員】 案をつくっていただいて、それをもう一回もんでいただいて、その実施方法についても次回検討するという事でよろしいのではないかと。

【藤森委員】 先ほどの質問なのですけれども、どちらかの図書館を反対意見が出たため取り止めになったという、その反対の意見の主な意見は何だったのですか。

【坂野委員】 テレビで報道されたものでしか知らないですが、1つは、明確に予算額ですね。愛知県小牧市で市の基本計画で34億円であったものが、25%増の42億円にもなった。この案は例の武雄市図書館のカルチャ・コンビニエンス・クラブ、CCCが参画したもので、通称「ツタヤ図書館」と呼ばれているものです。報道を聞いていると、住民にあまり詳しい説明がないまま予算が膨れ上がってしまったようです。主要な反対意見はもう一点あったのですが、頭の中に今、残っていませんので思い出せません。

また、その説明会の質疑応答がテレビに映されていて、その中に「そもそも市民にとって図書館とは何なのか」というような趣旨の発言をされた人がいたのでびっくりしました。全然そういう議論をして来なかったのではないかと不思議に思いました。今、言いましたように、7,000票差、結構な差ですね。2万4,000と3万2,000票の大差。

1つだけ気をつけなければいけないのは、小牧市の場合は新築です。武雄市も海老名も改築なのです。武雄市の改築予算が7億5,000万、海老名が9億円だったかな。少し事

情が違います。我々の小金井市はこの小牧市の例に近いですね。

【藤森委員】 やはり図書館にいらっしゃる方にアンケートをとるといって、もともと図書館が好きというか、その土台に立っている方に対してのアンケートで、小牧のように全体の市民の方に対してとられたアンケートとは少し変わってきますよね。

【坂野委員】 アンケートじゃないです。説明会の中で質問ありますかって、質疑応答されたものです。

【藤森委員】 反対意見が出たって。

【坂野委員】 マイクを持ってしゃべっていらっしゃる方がいらっしゃって、それがテレビで放送されたということです。

【藤森委員】 ええ。最終的には多数の方が反対したということですよね。

【坂野委員】 住民投票です。

【藤森委員】 ああ、住民投票。

【坂野委員】 投票率は50%になっていますから関心が高かった。

【藤森委員】 ああ……。そうすると、例えば今回アンケートをとりましょうということですけども、市民全体にとるか、来館者だけにとるかということでも随分変わってきますよね。

【坂野委員】 まさにおっしゃるとおりで、ですから私の提案は1つの方法でして、少なくとも来館して来る人には関心を持ってほしい訳です。中里さんがおっしゃったように、質問の出し方は非常に難しいですが、うまく誘導して、質問事項を毎週変えていけば関心は高められる。その関心をさらに高めるためにも、できるだけ多くの方に答えてもらえる方式がいいのではないかとということでご紹介したものです。

【藤森委員】 ありがとうございます。

【菊池館長】 おっしゃるとおり、アンケートのとり方はすごく重要になってきて、結果的に聞かなくてもわかったような回答が出てしまったということもありますので、私達が図書館のあり方を検討していく中で、市民の意向も知りたいという部分を探っていくためのアンケートですよね。そこのところは少し項目に気をつけて作っていきたいと思っております。

最初は使っていない方のご意見も聞きたいと思っていたのですがけれども、郵送をしますと予算的に厳しいものがありますので、来館していない方だとするとホームページが可能であれば、そちらの方向かという気はします。ほかにも、できるかどうかわかりませんけ

れど、図書館以外の施設にアンケートを置かせていただく方法もあります。ただ、そういうとり方をしてしまったのかどうかというところもありますので、あまり来館者の人はこれだけアンケートをとって、未利用者の人はこれだけで、それらを合わせて統計を出すというのも少し不公平感がありますので、そこはとり方に注意したいと思います。

【船崎委員】 郵送の方式がとれないというのは、主に予算的な問題ということですか。

【菊池館長】 はい。図書館計画を考えていた際には、その方法も考えていたのですが、あり方になってしまった段階で、無作為抽出はやはり郵送代ですとか、いろいろございますので、その方向が難しくなっていました。

【吉田委員】 アンケートを、もちろんだのような結果が出るか、それを参照して我々が考えていくというのはあると思うのですが、しかし、同時にアンケートのベースになっている今の図書館の現状やあり方自体をどう問われるかということもある訳です。

具体的には、例えば私の勤務している玉川大学は非常に古い図書館がありまして、私も含めて誰も使いたくなかったということで、そのアンケートも非常に惨憺たるものでした。アンケートについての方向は、それが全額教育棟で新しい図書館をものすごく金をかけて造りました。そうしたら一気に支持率が上がりまして、もちろん全ての学生が使うようになったのです。

ということは、つまりベースになっていた部分がどうなるかということで、それによってアンケートの結果が出てくる訳ですから、そのアンケート結果自体をあまり頼ると、下手するとまずい問題になってくるだろうと思うので、それを踏まえて、我々がどう考えて、あるいは教育委員会がどう考え、そして協議会がどうお考えなのかということが問題なのだろうと思うのです。それによって結果が左右されるということのないような問い方をする必要があります。ですから、何が必要かということが問えると思うのですが、どうするといいかというのは少し違うかもしれない。

例えば面積が大きければ、当然それがいい。たくさん本があれば、当然それがいい。そういうようなことになってくるので、やはりそういう問いではない問いを、どういうあり方がいいのかとか、そういうことについての問いをなるべくうまく考えていただかないと、いいアンケートにはならないのではないかと思います。

【田中会長】 なるほど。では、大体お話できたと思いますので、次回、資料を用意していただいて、始めたいと思います。事務局から何かございますか。インターネット端末について記載がございますが。

【菊池館長】 では、その他の図書館本館インターネット端末についてということで、お話しさせていただきます。

市民の方が使うインターネット端末が今まで図書館には1台も入っていませんでしたが、今年度予算措置できまして、9月6日から本館2階のロビーに1台設置することができました。調査をするためにお使いいただく端末として、お1人30分で1日2回までということにさせていただいています。

市報に載るのが紙面上、遅くなってしまいました、10月号に載っているのですが、少し周知が遅くなってしまったのですが、少しずつ利用はされているというところです。

使う方は参考資料室にお申し出いただいて、利用時間30分ということと、あと利用方法をご説明してお使いいただいています。

残念ながらデータベースは予算化できなかったのですが、今、使っている官報だけはそちらで使うことはできますが、ほかのものはインターネット検索だけになります。一応フィルタリングをかけているので、怪しいサイトに行ったりすることはできないですし、要綱を定めましたので、ゲームやメールをすることもできないように定めております。

特に使った方の氏名等をこちらで控えることもしておりません。統計上、何人の方が1日利用されているかについてのみ確認しております。

今はまだできないのですが、国会図書館のデジタル送信サービスを申請中ですので、いずれ国会図書館のデジタル化資料も国会まで行かなくても見られるようになります。

【田中会長】 ありがとうございます。委員の皆様から何かありますでしょうか。

【石田委員】 最後にいいですか。科学の祭典の事務局として、ご協力ありがとうございます。

来場者が現在7,750名と報告されております。朝雨が降ったので大変でしたが、私は1回しか教室を覗きに行けなかったのですが、とても盛況だったようなので、お疲れさまでございました。ありがとうございます。

【田中会長】 皆さん、ご協力いただき、ありがとうございました。

以上で会議を閉じたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

【西村庶務係長】 11月21日に三者合同会議がございますので、よろしく願いいたします。とりあえず出欠等をいただいているのですが、まだ少し先なので予定等入ってしまった方、随時ご連絡をいただければと思います。

また、1月の日程は、明日あたりに早目にメールで候補日を挙げさせていただいて、決

めてしまおうと思いますのでよろしくお願ひいたします。

【菊池館長】 第2回目は1月ということによろしいですか。

【田中会長】 議会の途中ですか。

【菊池館長】 議会は1月末からまた始まります。今年3月に市議選があるので、議会が前倒しになっていて、1月末から2月が議会です。

【田中会長】 12月もやるのでしょうか。

【菊池館長】 12月も。

【田中会長】 わかりました。その前に12月の情報が入れば、また色々と。

【菊池館長】 そうですね。

【田中会長】 では、本日はこれで終わりたいと思います。ありがとうございました。

【菊池館長】 ありがとうございました。

— 了 —